

ネットに「家族、友達よ さようなら」

# 「尊厳死」宣言の女性死亡

## 米オレゴン 予告の日に薬服用

【ロサンゼルス共同】 脳腫瘍で余命わずかと言われ、「尊厳死」を選ぶと言っていた米西部オレゴン州の女性アリタニー・メイナードさんが予告通り1日、自宅で医師から処方された薬を服用し死亡した。米メディアが2日報道した。

メイナードさんが活る人たちの顔の中で感動を支持していた尊厳死を推進するグループのスポークスマンは、「オレゴン州で公衆の利益、家族を尊重する開かれたメイナードさんの

人の映像は、800万回以上のアクセスを記録。英紙「デイリー・テレグラフ」なども国際メディアもメイナードさんの死を詳報するほど大きな反響があった。

旅はいつもの程度の教訓だった。なごき込めた。教育の修士号を持つメイナードさんはオレゴンの孤児院



「尊厳死」を望み医師から処方された薬を服用して死亡したメイナードさん（AP）

で勉強を修めるなど、世界中を旅行していたという。メイナードさんは1

スは別次元の問題と見て、患者を死なせたり、医師が薬剤を投与し、処方したりする命を縮短させる行為と見られる恐れがある。今回のようなケースは、

月に脳腫瘍と診断された。4月に余命半年と宣告された。それまで住んでいたカリフォルニア州から、死を遺言で処方することが認められているオレゴン州に夫婦で転居。11月1日、尊厳死を遂行すると公表し、国内外で「死の権利」をめぐる議論を巻き起こした。オレゴン州では1997年、米国で初めて法的に尊厳死が可能になった。現在はオレゴン州ワシントン州など計7州で同様の措置が認められている。AP通信によると、オレゴン州では昨年未だに750人以上が合法的に尊厳死している。

## 国境越え賛否議論

【ロサンゼルス共同】 自殺したならどうして服薬していた。本書は「死にたくない」と反論した。世界各国外でも判断が異なる。メイナードさんの現状に反響が広がってきた。米国では、反対派が「自殺を助長する」と批判。メイナードさんは自殺ではない。や他州の議会は「自殺

は倫理に反する」という宗教団体の主張に負けてきたと主張した。同紙によると、過去約20年間のギャロップ社の世論調査で、米国民の約7割が、治療の見込みのない患者が苦しむのを医師が「尊厳死」を認められて「ポランドやドイツでは合法化されている。

欧州では、患者の意思により医師が薬物などで死に至る「薬死の合法化」が徐々に広がっている。オランダは2001年に世界で初めて、回として安楽死を合法化、ベルギーが02年に、フランスが05年に「尊厳死」を認め、法律を制定した。